



從五位勲三等小田切萬壽之助外  
一名敏勲ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

大正五年十月十一日

内閣總理大臣伯爵寺内正毅 **印**

内閣



賞勳局上申第四二八號

内閣總理大臣 勳章七五七辨

大正五年十月十日 賞勳局



内閣總理大臣 為

賞勳局總裁



從五位勳三等小田切萬壽之助外一名  
叙勳ノ件別紙ノ通議定候條此段允  
裁ヲ仰ク

十〇十二号初旬

賞勳局

大正五年十月七日

賞勳局總裁

書記官

可



勳



議定官

否

叙勳議案

從五位勳三等小田切萬壽之助

外一名

賞勳局

右ハ曩ニ日英露佛獨等諸國カ支那第

一革命後同國ノ内政ヲ整理シテ之カ基

礎ヲ鞏固ナラシメ延イテ極東平和ノ

保持ニ資センカ爲支那政府ニ財政的

援助ヲ與フルノ議アルヤ同人等ハ我公使又ハ大

使ノヒ日ヲ享ケ終始斡旋盡力至ラサルヲ遂ニ

支那借款契約ノ成立ヲ見ルニ至リタル功績顯

著ナリト認ム依テ外務大臣ノ上奏ヲ勘査

シ勳等ヲ擬議スル左ノ如シ

叙勳二等授瑞寶章

從五位勳三等小田切萬壽之助

叙勳五等授雙光旭日章

武内金平

横濱正金銀行取締役

勲二等瑞寶章

從五位勲三等小田切萬壽之助

右者横濱正金銀行代表者トシテ多年支那ニ在リ日支兩國間經濟關係ノ接觸ヲ圖ルト共ニ我對支事業ノ振興ニ盡瘁シタルコト淺カラス殊ニ日英露佛獨諸國カ支那第一革命後同國ノ内政ヲ整理シテ之カ基礎ヲ鞏固ナラシメ延ヒテハ極東平和ノ保持ニ資セムカ為支那政府ニ財政的援助ヲ與フルノ舉アルヤ同人ハ直接間接在支帝國公使ノ旨ヲ

外務省

享ケ或ハ支那當局ニ對シ或ハ各團體代表者ノ間ニ在リ終始斡旋盡力至ラサルナク遂ニ大正二年四月前記五國銀行團ト支那政府トノ間ニ支那改革借款契約ノ成立ヲ見ルニ至リ同人ハ我資本家ヲ代表シテ同契約ニ調印シ爾來同借款契約ノ運用ニ關シテモ帝國ノ利益ヲ擁護増進シ我對支經營上ニ貢獻スル所不尠其功績真ニ顯著ナリトス

横濱正金銀行總支配人代理

勲五等雙光旭日章

武内金平

右者日英露佛獨諸國カ支那第一革命後同國ノ内政ヲ整理シテ之カ基礎ヲ鞏固ナラシメテハ極東平和ノ保持ニ資セムカ為支那政府ニ財政的援助ヲ與フルノ議アルヤ當時正金銀行代表者トシテノ倫敦ニ在リタル同人ハ直接間接在英帝國大使ノ旨ヲ享ケ各團體代表者間ニ在リテ終始斡旋盡力至ラサルナク遂ニ明治四十五年六月前記六國銀行團

## 外務省

間ニ支那改革借款ノ基礎ヲ為セル所謂六國團體規約ノ成立ヲ見ルニ至リ同人ハ我資本家ヲ代表シテ同規約ニ調印シ爾來同規約ノ運用ニ関シテモ帝國ノ利益ヲ擁護増進シ我對支經營上貢獻スル所甚カラス其功績真ニ顯著ナリトス

支那ニ於ケル鐵道礦山等諸種ノ事業ニ對  
スル各國人利權獲得ノ競争ハ政界ノ動乱ヲ  
重ヌル毎ニ其熱度ヲ高メ特ニ第一革命ニ於  
テ支那國庫ノ空乏ハ益々投資者ヲ誘致シ  
競争ノ劇甚ナル殆ント絶頂ニ達シ此趨勢ヲ  
自然ニ放任セハ支那財政ノ紊亂ハ勿論利權ノ  
割讓ハ遂ニ停止スル所ヲ知ラス其結果ハ誠ニ  
寒心ニ堪ヘサル状態ヲ呈セリ茲ニ於テ從來專  
ラ鐵道ニ放資シツ、アリシ英佛獨米ノ資本  
家ヨリ成ル四國團ハ各關係政府ト協議スル  
所アリ乃チ支那ノ興廢ニ利害關係ノ最モ深  
厚ナル日露兩國政府ヲ誘ヒ其資本家ニ參加ラ

求メ以テ六億萬円ノ改革借款ヲ起シ一ハ軍隊ノ  
解散、短期債ノ償還、及行政上緊急ヲ要スル  
資金ヲ給シ以テ動乱ヲ鎮定セシメ一ハ利權獲得  
ノ運動ヲ制肘シ六國資本家相協商ニ關係政  
府ノ方針ヲ俾シテ支那ニ放資シ以テ支那領土  
保全牽テハ東洋ノ平和維持ノ實ヲ擧ケシコ  
トヲ提議シ日露兩國政府ハ之ニ賛同シ遂ニ正  
金銀行及兩路亞銀行ヲ夫々四國團ニ加入セシムル  
コトニ決シ兩行代表者ハ千九百十二年五月十五日  
初テ倫敦ニ於テ該會議ニ列シ其後動モスレハ  
協商不調ニ終ラントシ幾多折衝ヲ經テ漸ク同  
年六月十八日巴里ニ於テ六國團規約ハ調印セ  
ラレタリ此規約ニ據レハ團員ノ權利義務ハ平等

トシ將來支那政府ノ公債ハ團員單獨ニ引受ケル  
コトヲ得ス必ス全員ニ提供スルコトトシ且此規約ハ  
支那改革借款全部發行ヲ終リ又ハ其發行ヲ不  
要ト法シ若クハ五年ヲ經過スル迄有効ト定メタ  
リ斯クモ此規程ノ下ニ在北京各國代表者ニ依  
リ支那政府ト借款交渉ヲ進メツ、アリシガ偶  
米國大統領ノ改選アリ新政府ハ本借款ハ結局  
支那ノ内政ニ干渉スルモノナレハ米國ノ主義ニ反ス  
ルモノトシ米國團ニ對スル保護ヲ撤廢シタリ茲  
ニ於テ米國團ハ止ムヲ得ス六國團ヲ脱退シ爾  
來六國團ハ五國團トナリ支那政府トノ交渉ヲ  
持續シ幾多曲折ヲ經テ千九百十三年四月二十六  
日五分利貳億五千萬ノ改革借款契約ハ遂ニ五  
國團ト支那政府間ニ調印セラレ同年五月二十三  
日滯リナク同公債ノ發行ヲ了セリ而シテ本公債  
ニ依リ支那政府ハ革命ノ難關ヲ切り抜ケ且塩  
稅ノ改正ニ着手シ其成績頗ル良好ニシテ以テ  
財政整理ノ端緒ヲ開キ一面五國團ハ豫想ノ  
目的ヲ達シ各關係政府ノ對支政策上貢獻ス  
ル所アリタルノミナラス將來支那政府ノ行政費ニ  
關スル又ハ塩稅ヲ担保トスル公債ニ對シテ優先  
權ヲ有シ從ツテ支那ニ於ケル他ノ資本家ニ比  
シ優越ノ地位ヲ獲得シ恰モ支那財政上樞要ノ  
一機關タルノ概アリ現ニ最近ニ至リ第貳次改  
革借款一億圓ノ交渉ニ從事セリ

在倫敦代表者ハ左ノ通り會議ニ列シ帝國政府ノ訓令並ニ在英佛兩大使ノ指導ノ下ニ先ツ五國團規約ヲ調印シ次ニ支那政府公債契約ノ條項ヲ議定シ最後ニ該公債發行ノ手續ヲ協定シタル上大正二年五月二十一日發表セラレタル該公債本邦側持分約五千萬圓ノ發行ニ執掌シ之ヲ完了シタリ

明治四十五年五月十五日 倫敦會議  
 全 五月十六日 全  
 全 六月八日 巴里會議  
 全 六月十八日 全  
 全 六月十九日 全

外務省

明治四十五年六月二十日 巴里會議(日本側參加確定)  
 大正元年 十月八日 巴里會議  
 全 十二月十四日 倫敦會議  
 大正貳年 一月十日 全  
 全 一月十一日 全  
 全 二月二十二日 巴里會議  
 全 四月二十六日 全  
 全 四月二十七日 全  
 全 七月七日 全  
 全 九月二十六日 倫敦會議  
 大正參年 參月二十七日 巴里會議  
 (以上)

(發行確定)  
 (武内輝朝ニ付  
 獎出席)



在北京代表者ハ左ノ通り支那政府當局者ト會見シ又團體代表者會議ニ列席シ支那政府ト公債契約ヲ立案シ倫敦代表者ト打合せノ上該契約ニ調印シ以來契約ノ運用ニ盡瘁セリ

明治四十五年五月八日 支那財政總長ト會見

五月十一日 同

六月二十二日 團體會議

七月九日 支那財政總長ト會見

大正元年十一月二十日 同

十一月二十五日 團體會議

大正元年十一月二十七日 同

外務省

大正元年十一月二十八日 團體會議

十二月五日 同

十二月十八日 支那財政總長ト會見

十二月二十日 團體會議

十二月二十二日 同

十二月二十三日 同

十二月三十日 同

十二月三十一日 同

大正貳年 一月八日 同

一月十三日 同

一月十八日 同

四月二十八日 財政總長ト會見

六月八日 同

左 左 左

六月二十二日

七月十七日

十一月十二日

團體會議

(以上)

外務省

履歴書

本籍東京府荏原郡品川町  
大字北品川宿七百三十三番地士族

小田切萬壽三郎

明治元年正月生

明治二十年十二月十九日

一任領事館書記生、叙利任官五等

一任領事館在勤ヲ命ス 外務省

其後、以後館書記生、又、領事館書記生  
トシテ京城桑堤、領事館各地在勤被命

同日二十九年六月八日

一任二等領事、叙高等官六等

外務省

一杭州在勤ヲ命ス

外務省

同日同日三月十日

一叙正七位

同日三十二年五月十八日

一上海在勤ヲ命ス

外務省

同日三十一年六月二十日

一任一等領事、叙高等官五等

同日九年九月十日

一叙從六位

同日三十二年五月十五日

一叙勲六等授暹羅光旭日章

同日三十四年三月二十日

一陞叙高等官四等

同年七月十日。

一叙西大位

日三十五年一月十日。

一任總領事 叙高等官四等

日三十五年二月二十八日。

一清國通商航海條約改訂委員被仰付

一清國國稅率換算委員被仰付

内閣

(日三十七年一月左右委員被免)

日三十七年二月二十八日。

一叙勲五等授叙光旭日三十七年

一明治三十七年清國通商事務之於片儿功之修り

勲五等叙光旭日三十七年及全千三百圓ヲ授

外務省

賞勲局

大賜

日三十七年五月二十日。

一叙勲四等授叙旭日七後三十七年

日三十八年四月二十日。

一陞叙高等官三等

日三十八年六月二十日。

一叙授五位

日三十八年七月十八日。

一依願免本官

日三十九年七月二十日。

一本行願闕之囑托下 横濱正金銀行

日三十九年三月十日。

一横濱正金銀行株式會社之定式總會之於同日

行取停後、高富送ス

(其後改選毎高富送ス其後改選ス存)

同年同月十日

一 藩州徳縣在管理ヲ囑ル (同十日奉正)

横濱正金銀行

同年四月下

一 教勲三等授旭日中後章

一 明治三十七年ノ功ニ依リ勲三等旭日中後章

及全二千四百授ケ賜フ 賞勲局

同日十四年五月十日

一 清國支店出張所管理ヲ囑ル

横濱正金銀行

(其後引後カ今日迄在任)

外務省

同五年五月三日

一 政府ノ命令ヲ奉シ支那ニ出張シ同國ヲ訪ル

五國銀行團ノ日本銀行團ヲ代表シ今日

日ニ至リ

受領及佩用ヲ許可スルニ外國勲章

妙左

一 清國二等勲章ニ及ビ龍寶日生

一 支那共和國ニ勲章ヲ授ケ奉ル

一 佛蘭西共和國ニエダアリエ、ド、ロ、ド、ル、

ナニヨリ、ド、ラ、レ、ジ、ユ、ド、ノ、ル、勲章

履歴書

本籍神奈川県鎌倉市神奈川町  
八五八番地平民

武内金平

明治五年二月十日生

明治廿四年 東京帝國大學法科卒業

日 年 横濱の全銀行就職

日 年 龍動支店格付人命セラル

日 年 洋報社人命セラル

日 年 東京支店格付人命セラル

日 年 天津支店副支店人命セラル

日 年 北京支店副支店人命セラル

日 年 上海支店副支店人命セラル

日 年 漢口出張所主任人命セラル

日 年 漢口支店支店人命セラル

日 年 漢口支店支店解任帰朝人命セラル

日 年 龍動支店副支店人命セラル

日 年 英博覧会開会中ノ特別

日 年 手当りして人命セラル

日 年 関心支店支店人命セラル

日 年 全支店支店人命セラル

日 年 日英博覧会開会中ノ特別

日 年 手当りして人命セラル

日 年 関心支店支店人命セラル

日四十五年五月十日

畫力之依り大蔵者より慰勞  
令リ給与セラルン  
倫敦に於テ東京市債表  
行ノ除畫力ニ依リ令リ給  
与セラルン

大正元年九月十日

倫敦支店支取人帰朝中  
物お手書リ又依セラルン  
外國國會中畫力ノ座リ學  
令リ給与セラルン

日 二年十月十日

支那改革借款ノ件ニ關ルニ  
畫力ノ座リ以テ令リ給与セラル  
ン

日 二年九月十日

信託部印取リ命セラルン

日 二年八月十日

外務省

漢語譯件より借款ノ圖ニ畫  
力ノ座リ以テ令リ給与セラルン  
青島支店お及ヒ濟南府  
其他ノ支店リ人命セラルン

日 五年十月十日

中華内國ニ對シテ新案ノ  
佩用リ可セラルン

日 五年十月十日

高次視察案ノ為南洋ニ  
令リ給与人命セラルン

横濱正金銀行取締役從五位勲三等小田切  
萬壽之助外一名儀ハ別記ノ通我對支經營上貢  
獻ニタル功績顯著ナル者ニ有之候間各頭書ノ通  
叙勲被仰出候様仕度此段謹テ奏ス

大正五年八月三日

外務大臣子爵石井菊次郎



外務省





文 五 四 一 號

入機密送第八一號

大正五年八月五日換手

小田切萬壽之助外一名叙勲ノ件  
横濱正金銀行取締役從五位勲三等小田切萬  
壽之助外一名叙勲ノ儀別紙ノ通上奏致候間  
可然御取計相成度此段申進候也

大正五年八月三日

外務大臣子爵石井菊次郎



内閣總理大臣侯爵大隈重信殿

外務省

人 二二二 二二二

田功萬壽之由外名

教書之要

豫て書者方且より上書を成其の横濱  
 百全起り百持符少田功萬壽之由  
 外一名教書之由一箇に空月十日付  
 重由書分二五八五つ以て出念を以て  
 了書之由一武由全平功積書寸  
 右者日其書件指積回カレトアんヤ右者  
 日其朱書件指積回カレトアんヤ右者  
 経て日人功積書後版「前記六回書り國  
 トアんハ右日其朱書件指積回カレトアんヤ  
 指て元一り書件指積回カレトアんヤ又各人ノ功

外務省

債ハ当我々々書回ノ由外名

有月書回

大正五年十月

外務省人事課



書之由外名

大正五年十月六日